

Reason Studios



Reason¹²

Installation Manual

Reason Studios

reasonstudios.com

本書に記載されている事柄は将来予告なしに変更することがあります。またReason Studios ABは本書に記載されている事柄について約束するものではありません。

このマニュアルで説明されているソフトウェアは、ソフトウェア使用許諾書によって許可されていることを除き、いかなるメディア（記録媒体）にも複製することが禁じられています。

Reason Studios ABの事前の書面による許諾なしに、本書の内容の一部またはすべてを、いかなる目的でも複写、複製、転載、送信、記録することは禁じられています。

©2021 Reason Studios and its licensors. すべての仕様は予告なく変更することがあります。

Reason, Reason Intro, Reason LiteとRack ExtensionはReason Studiosの登録商標です。

その他の製品名は、各社の商標および登録商標です。All rights reserved.



目次



イントロダクション 7

ようこそ！ 8

Reason のドキュメントについて 8

インストール 9

必要条件 10

macOS 10

Windows 10

オーディオハードウェアについて 10

macOS とオーディオハードウェア 10

Macintosh で内蔵オーディオハードウェアを使用する場合 10

Macintosh で他のオーディオハードウェアを使用する場合 10

Windows とオーディオハードウェア 11

MIDI インターフェースについて 12

MIDI 入力接続 12

MIDI 出力接続 12

ソフトウェアのインストール 13

Reason インストール 13

オーソライゼーションシステム 13

Reason の登録 14

Reason をインターネット認証で使用 14

コンピューター / Ignition Key のオーソライズ (オフライン使用のため) 15

コンピューター / Ignition Key のオーソライズ解除 16



Reason をオーソライズされたコンピューターで使用する 16

Reason をデモモードで使用する 17

セットアップ 19

本章について 20

最初の起動時 -Reason セットアップウィザード 20

環境設定について 22

オーディオハードウェアのセットアップ 23

macOS 24

Windows 24

レイテンシーとその他オーディオ設定について 24

MIDI コントロールサーフェスのセットアップ 25

Easy MIDI Inputs 機能の自動設定 25

特定のコントローラ追加方法 26

お持ちのコントロールサーフェスがメニューにない場合 29

マスターキーボードについて 29

マスターキーボード入力 30

その他の機能 30

デフォルトソングの設定 31

起動時に最後に開いたソングを開く 31

macOS ファンクションキーの再アサイン 32





第1章 イントロダクション



ようこそ!

Reason をお選びいただきありがとうございます。

Reason 12には、数多くの素晴らしい改良と追加が施されています。Reasonにはスケーラブルなユーザーインターフェースが採用され、すべてのラックデバイスに高解像度のグラフィックが使用されています。また、Reasonのブラウザには新しいFast Searchが追加されました。ブラウザには新しいFast Searchが追加され、パッチやサウンドの検索がより速く、簡単になりました。また、複数のCombinatorを直列に並べてミキサーのインサート・エフェクトとして使用することがより簡単になりました。

Reason 12には新しいMimic Creative Samplerが搭載されており、サンプルを非常に直感的な方法で切り刻んで再生することができます。最後に、Combinator デバイスがアップデートされ、機能が大幅に強化されました。自分だけの楽器やエフェクトを作ることができます。

Reason 12では、前バージョン同様、Reason Rackを対応する他のDAWでプラグインとして使用することもできます。

また、Reason StudiosのWebサイト (www.reasonstudios.com) にアクセスして、自分のラックに追加できる、私たちや他の人が作った新しいRack Extensionインストールメントやエフェクトの情報の確認もお忘れなく。

Reason Studios スタッフ一同

www.reasonstudios.com

Reason のドキュメントについて

本書はインストールマニュアルであり、Reason のインストールと基本的な設定手順を解説します。Reason の機能や操作手順の詳細についてはオペレーションマニュアル PDF ファイル、またはオンラインヘルプをお読みください。オペレーションマニュアルとヘルプでは Reason のデバイスとコマンドについて詳細に解説しています。

必要となるシステム

Reason は 64 ビット版の macOS と Windows (詳しくは p. 10 「必要条件」 をご参照ください) で使用でき、インストール用ディスクも両プラットフォームに対応しています。マニュアル内においても特に指定がない限り、両プラットフォーム共通の内容になります。



第2章 インストール



必要条件

Reason を使用するには最低限で以下のシステムが必要です：

！ これは最低限のシステムですので、ご注意ください。多くの RAM を搭載した高速のコンピューターでは、より多くのデバイスを同時に使用できます。

macOS

- ・ インストールと登録のために安定した高速インターネット
- ・ マルチコア Intel プロセッサ搭載 Mac
- ・ 4GB の RAM (大きい ReFill や Rack Extension を使用する場合は 8GB 以上を推奨)
- ・ 5.5GB のシステムディスク空き領域と、追加コンテンツのために 8GB と、Reason Suite のために 12GB。さらに最大 20GB までスクラッチディスクとして使用することがあります。
- ・ macOS 10.13(High Sierra)以上 (64 ビット)
- ・ 1280x768 ピクセル以上のディスプレイ
- ・ CoreAudio 対応のオーディオインターフェース、または内臓オーディオハードウェア
- ・ MIDI インターフェースと MIDI キーボード推奨
- ・ Reason の VST プラグイン版を使うために、VST3 対応してる DAW が必要になります。

Windows

- ・ インストールと登録のために安定した高速インターネット
- ・ マルチコアの Intel または AMD プロセッサ
- ・ 4GB の RAM (大きい ReFill や Rack Extension を使用する場合は 8GB 以上を推奨)
- ・ 5.5GB のシステムディスク空き領域と、追加コンテンツのために 8GB と、Reason Suite のために 12GB。さらに最大 20GB までスクラッチディスクとして使用することがあります。
- ・ Windows 10 (64 ビット)
- ・ 1280x768 ピクセル以上のディスプレイ
- ・ ASIO ドライバー対応オーディオインターフェース
- ・ MIDI インターフェースと MIDI キーボード推奨
- ・ Reason の VST プラグイン版を使うために、VST3/AAX に対応してる DAW が必要になります。

オーディオハードウェアについて

！ Reason Rack Plugin を実行してる場合には、すべてのオーディオ入出力は DAW 側に管理されていません。そのソフトの使用説明書に確認してください。

オーディオハードウェアとは、楽器やマイクなどからのアナログ信号を Reason が使用 / 保存できるデジタル信号に変換し、さらにアナログ信号に再変換 (アンプ、ヘッドフォンなどに送信するため) するコンピューター周辺機器のことです。内蔵オーディオカードや 2 チャンネル USB/Firewire オーディオインターフェースから、マルチ入出力やデジタル端子などを装備したオーディオカードまで様々なタイプがあります。どのタイプを使用するにも、ハードウェアとドライバーが正しくインストールされている必要があります。

macOS とオーディオハードウェア

Macintosh 内蔵オーディオハードウェアを使用する場合

すべての Mac 機種には内蔵オーディオインターフェースが備わっており、ステレオ入出力端子 (場合によっては内蔵マイク入力も) が使用できます。Reason の使用用途によっては内蔵入出力のクオリティでも十分な場合もあります。



Macintosh で他のオーディオハードウェアを使用する場合

他のオーディオハードウェア（例：マルチ出力、デジタル端子付き等）で Reason を使用することもできます。このためにはオーディオハードウェアが macOS に対応している必要があります。つまり CoreAudio 用のドライバーのあるハードウェアが必要です。

1. **オーディオハードウェアドライバーを、付属するマニュアルの記述に従ってインストールしてください。**
一部のオーディオハードウェアは特別なオーディオドライバーを必要としません。詳しくはハードウェアのマニュアルをご参照ください。
2. **オーディオハードウェアのステレオ出力を再生機器（スピーカー、ミキサー、ヘッドフォン他）に接続します。**
マルチ出力（つまりステレオ以上）の使用方法についてはオペレーションマニュアルをご参照ください。本書では標準のステレオ接続についてのみ解説します。
3. **可能であればオーディオハードウェアで、再生の確認をします。**
オーディオハードウェアによっては、このためのテストアプリケーションが付属していることもあります。

Windows とオーディオハードウェア

Windows PC で他のオーディオハードウェアを使用する場合

！ Windows 環境の Reason でオーディオ入出力をフルに活用するにはオーディオハードウェアの ASIO ドライバーの使用が必須です。

Reason は Direct X や MME ドライバーでも使用できますが、これらではオーディオ出力のみの対応であるだけでなく、ASIO ドライバーと比較して高いレイテンシーになってしまいます。

1. **オーディオハードウェアの最新 ASIO ドライバーを使用していることをご確認ください。**
最新バージョンについてはハードウェアメーカーのウェブサイトをご確認ください。
2. **オーディオハードウェアドライバーは、付属するマニュアルの記述に従ってインストールしてください。**
3. **オーディオハードウェアのステレオ出力を再生用の機器（スピーカー、ミキサー、ヘッドフォン等）に接続します。**
マルチ出力（ステレオ出力以上）の用法についてはオペレーションマニュアルをご参照ください。本書では標準のステレオ接続についてのみ解説します。
4. **可能であればオーディオハードウェアで、再生の確認をします。**
ASIO ドライバーを使用するオーディオハードウェアではテストアプリケーションが必要になります（多くの場合はハードウェアに付属しています）。



MIDI インターフェースについて

Reason を外部 MIDI コントローラーなしで使用することも可能ですが（“オンスクリーンピアノキー”で演奏、またはシーケンサーに手書きでノートやオートメーションを書き込む）、これではプログラムのポテンシャルを最大限に引き出せません。下述では MIDI インターフェースと外部 MIDI コントローラー（MIDI インターフェース機能内蔵の USB キーボード、MIDI インターフェースに接続した MIDI キーボードなど）を使用していることを前提に解説します。

- キーボードコントローラー、または MIDI インターフェースとドライバーをインストールする際はこれらのマニュアルの記述に従ってください。
- 1 入力のみ MIDI インターフェースでも使用可能ですが、複数入力を装備したインターフェースがより便利です。
Reason パラメーターを複数の MIDI コントロールサーフェスで制御する場合や、Reason を外部のスタンドアロンシーケンサーやドラムマシンなどと併用して使う場合などでは特にそうです。
- USB 経由で接続した MIDI インターフェースの中にはドライバーのインストールが不要なものがあります。この場合インターフェースを接続するだけで準備 OK です。
- それ以外のより高機能な MIDI インターフェース（もしくは複数入力のような高度な機能を持つ製品）の場合、ドライバーのインストールが必要です。
詳しくはインターフェースに付属するドキュメントをご参照ください。

MIDI 入力接続

- USB ケーブルを使ってキーボードをコンピューターに接続します。

または

- MIDI キーボード（またはその他の MIDI コントローラー）の MIDI 出力端子と、MIDI インターフェースの MIDI 入力端子を MIDI ケーブルで接続します。
これだけで外部の MIDI キーボードを使って Reason でノートやコントローラーを演奏 / レコーディングできます。
 - USB キーボードをご使用でない場合は、MIDI インターフェースの MIDI 出力端子と MIDI キーボードの MIDI 入力端子も接続します。
これは絶対に必要と言う訳ではありません。ただしこれにより Reason を初めて起動した時に現れる Reason セットアップウィザード（p.20 「最初の起動時 - Reason セットアップウィザード」参照）や環境設定のデバイス自動検出時（p.26 「特定のコントローラ追加方法」参照）に双方向コミュニケーションが可能になります。自動検出への対応 / 非対応は MIDI キーボードの機種によります。
- !** もし複数の MIDI コントロールサーフェスを使用する場合は、それぞれ別々の MIDI ポートに接続するか、USB で直接コンピューターに接続する方法を推奨します。

MIDI 出力接続

外部のシンセサイザー、ドラムマシン、その他の MIDI 演奏が可能なデバイスをお持ちの場合、これらを Reason からコントロールできます。このためには MIDI インターフェースが必要です。

- MIDI インターフェースの MIDI Out 端子と外部デバイスの MIDI In 端子を MIDI ケーブルで接続します。
Reason から外部 MIDI デバイスをコントロールする方法について、詳しくは Reason オペレーションマニュアル PDF、または Reason プログラム内のヘルプをご参照ください。



ソフトウェアのインストール

! 独立 Reason と Rack Plugin は同じ手法でインストールされます。それでは、Rack Plugin のみを使う予定でしたら、下記の手順を参考にしてください。

Reason インストール

→ ダウンロードした zip ファイルを解凍するか (Windows)、ディスクイメージファイルをマウントします (macOS)。

次の手順は Mac と Windows コンピューターによって異なります。

Windows :

1. "Install Reason 12.exe" というファイルをダブルクリックします。
2. 表示される指示に従ってインストールを進めます。
ソフトウェアのインストールを始める前に、使用言語とインストール場所の指定およびデスクトップにプログラムへのショートカットを作成するかの選択を行います。インストールが完了すると REASON をすぐに起動するオプションが表示されます。
Reason Rack Plugin VST3 は自動的に : C:\Program Files\Common Files\VST3 にインストールされます

macOS :

1. "Install Reason 12" というファイルをダブルクリックします。
2. 表示される指示に従ってインストールを進めます。
Reason Rack Plugin VST3 は自動的に : Macintosh HD/Library/Audio/Plug-Ins/VST3 にインストールされます。

プラットフォーム共通 :

- ・ インストール中には Authorizer アプリケーションもコンピューターにインストールされます。このアプリケーションは Reason のオーソライゼーション (下記参照) と、Rack Extension デバイスの管理に必要です。
- ・ 初めてプログラムを起動する際、任意でコンテンツ管理ウィンドウから追加コンテンツをダウンロードできます。
追加コンテンツには Rack Extensions とサウンドバンクが含まれ、コンピューターの "ミュージック">"Propellerhead Content" フォルダに保存されます。ダウンロード後に Reason を再起動すると追加コンテンツが使用できるようになります。

オーソライゼーションシステム

Reason は可能な限り柔軟性を考慮しつつ、優れたコピー保護が可能なオーソライゼーションシステムを採用しています。次のように機能します :

- ・ オーソライゼーションシステムの核は、Propellerhead ウェブサイトでご自身のユーザーアカウントに登録したライセンスナンバーです。
- ・ インターネット接続されている場合は、Reason をインターネット認証で使用できます。
- ・ インターネット接続なしで Reason を使用する場合は、CodeMeter アプリケーションをダウンロードして、Propellerhead ユーザーページからコンピューター (もしくは Ignition Key ハードウェア) をオーソライズできます。
Reason は起動時にコンピューターがオーソライズされていることを自動的に認識します。
- ・ 最後に、インターネット接続、オーソライズされたコンピューター、Ignition Key ハードウェアのどれも無い場合はデモモードで Reason を使用できます。
このモードはプログラムの購入前に試すために使うモードでもあります。デモモードではソングの保存を含め、通常通り作業を行います。ただしデモモードではソングを開くことはできません (詳しくは p. 17 「Reason をデモモードで使用する」を参照ください)。

! 注: 独立 Reason と Rack Plugin は同じ手法でインストールされます。



Reason の登録

Reason をオーソライズモードで使用するには、プログラムをご自身の Propellerhead ウェブサイトのアカウントに登録する必要があります (p. 14 「Reason をインターネット認証で使用」と後で追加のリンク参照)

→ パッケージ版を購入した場合には、搭載されている説明書の手段を従ってください。

! Reason を Reason Studios ウェブショップから直接ご購入された場合、Reason のライセンスは既にユーザーアカウントに登録されており、インターネット認証を使って Reason を使用できます。

Reason をインターネット認証で使用

オーソライズされていない、もしくは Ignition Key ハードウェアが接続されていないコンピューターで Reason を初めて起動すると、次のウィンドウが表示されます：

! 注：これにはインターネット接続が必要です。また p. 14 「Reason の登録」に記載されているように、Reason ライセンスがあなたのユーザーアカウントに登録されている必要があります。

A screenshot of the Reason login window. The window has a title bar with a close button (X) and a small icon. The main content area has a light gray background with the text "Reasonへようこそ!" at the top. Below this is a form with two input fields: "ユーザー名" (Username) and "パスワード" (Password). There is a checkbox labeled "パスワードを記憶" (Remember password) and a blue "ログイン" (Login) button. At the bottom of the form, there is a small note: "ログインすることでPropellerheadアカウントをオーソライズセッションとして使用できます。インターネット接続が必要になります。" (By logging in, you can use your Propellerhead account as an authorized session. An internet connection is required.) At the bottom of the window, there are two links: "デモモード" (Demo mode) and "さらなるオプション" (More options).

→ Propellerhead アカウントのユーザー名とパスワードを入力し、ログインボタンをクリックします。これで Reason はオーソライズモードで起動します。

→ 「パスワードを保存する」をクリックしたら、最初 Reason Rack Plugin を実行したら、バックグラウンド、ダイアログ無しで起動されます。

! ひとつのアカウントに登録された Reason を同時に 2 台のコンピューターで使用することはできません。この場合、Reason はデモモードに切り替わります (p. 17 「Reason をデモモードで使用する」参照)。



コンピューターのオーソライズ（オフライン使用のため）

！ 注：次の手順を行うにはインターネット接続が必要です。

1. Reason を起動します。
Reason を起動すると次のウィンドウが表示されます：



2. "さらなるオプション" ボタンをクリックします。
デフォルトのウェブブラウザが起動し、オーソライズ手順が詳しく記載されている Propellerhead ウェブサイトの "さらなるオプション" ページが開きます。
3. ウェブページのリンクから、Codemeter をダウンロード、インストールします。
以前のバージョンの Reason からアップデートしている場合は既に Codemeter がインストールされているかもしれませんが、最新バージョンの Codemeter ドライバをダウンロード、インストールすることを推奨します。
4. インストールが終わったら、"さらなるオプション" ページへ戻り、"Authorize Computer and Keys" のリンクをクリックします。
5. 次の起動からログインの必要なく、Reason をオーソライズモードで使用できます。
ウェブブラウザは閉じて大丈夫です。



コンピューターのオーソライズ解除

コンピューターと Ignition Key をそれぞれ1つずつオーソライズできます。他のコンピューターに作業を移す場合、まず現在ご使用のコンピューターのオーソライズを解除してから、他のコンピューターをオーソライズすべきです。この作業は Propellerhead ウェブサイトのお客様のアカウントページから行います：

1. 現在オーソライズされているコンピューターでログインし、ユーザーメニューから **"Products"** ページにアクセスします。
2. **"Authorize"** ボタンをクリックします。
表示されるページで、コンピューターのアイコンのとなりに **"Deauthorize"** ボタンがあるはずです。
3. コンピューターのアイコンのとなりの **"Deauthorize"** ボタンをクリックしてコンピューターからオーソライゼーションを取り除きます。

！ OSのアップデート、コンピューターの修理、もしくは売却する前に、必ずオーソライズを解除してください。

Reason をオーソライズされたコンピューターで使用する

オーソライズされたコンピューターを接続して Reason を起動すると、それ以上の操作なしにプログラムを使えます。



Reason をデモモードで使用する

！ デモモードは独立した Reason のスタンドアロンモードのみで実行できます。

Reason ライセンスを持っていない、コンピューターがオーソライズされていない、またはインターネット接続が使用できない場合、Reason をデモモードで使用できます：

1. Reason を起動します。

次のウィンドウが現れます：



2. "デモモード" ボタンをクリックします。

Reason はデモモードで起動します。

シーケンサーのトランスポートパネル右側の "Demo Mode" インジケーターが点灯します。



Reason をデモモードで使用する場合、次の3つの例外を除き、オーソライズモードと同じ操作を行えます：

- ・ オーディオの書き出し、ミキサーチャンネルのディスクへのパウンズはできません。
- ・ **Rack Extension** デバイスにはアクセスできません（付属の **Radical Piano**、**Synchronous**、**Softube Amp**、**Audiomatic**、**Pulsar Rack Extensions** 以外）。
- ・ ソングを開けません。

デモモードで開けるソングはデモソングのみ（拡張子 ".rsndemo"（REASON デモソング）、".reedemo"（Reason Essentials デモソング）、".reidemo"（Reason Intro デモソング）、".reltdemo"（Reason Lite デモソング）と ".recdemo"（RECORD デモソング））です。デモソングは "ファイル" メニューの "デモソングを開く" で開けます。

オーソライズされていないコンピューターでインターネット認証モードで使用中にインターネット接続が切断された場合、プログラムは自動的にデモモードに切り替わります。この場合でも通常通り作業を続けられる上、ソングの保存も可能です。インターネット接続が回復すると Reason は自動的にオーソライズモードに戻り、デモモードインジケーターは消えます。





第3章

セットアップ



本章について

！ この章は独立したスタンドアローンモードの Reason のみに該当します。Reason Rack Plugin はこれ以降の MIDI やオーディオ初期設定は必要ではありません。

この章はスタンドアローン Reason の初期設定を説明します。この手段は Reason で音を出したり、MIDI コントロールを行うためです。

最初の起動時 -Reason セットアップウィザード

前章の説明通り正しくインストールが終了すると Reason は起動します。まず最初に Reason セットアップウィザードが表示されます。

セットアップウィザードはインストール後、最初の起動時にもみ現れます。



！ 表示言語の選択ページは Windows 環境でのみ表示されます。macOS ではシステムの言語が使用されます。

！ セットアップウィザードで設定した内容は、後から環境設定ダイアログでいつでも変更することが可能です。

→ [次へ] をクリックするといくつかのダイアログが順番に表示され、次の操作を行えます：

- ・ セットアップウィザードはまず最初に互換性のあるオーディオドライバーを検出します。
一番最初に検出された互換性のあるドライバーが自動的に選択されます。選択されたドライバーが希望するものであれば、そのまま問題ありません。もし違う場合はオーディオ出力ポップアップメニューから希望のオーディオドライバーを選択してください。どのドライバーを使えば良いのかわからない場合は、p. 23 「オーディオハードウェアのセットアップ」をご参照ください。
- ・ 次に Reason はマスター MIDI キーボードを自動検出します。
キーボードが検出された場合は、「次」をクリックしてください。

！ Reason にデバイスを自動検知させるには双方向の MIDI コミュニケーションが必要です！ただし USB ではなく、MIDI 入力もないキーボードデバイスでも手動で追加できます。



- ! 最近の USB キーボードであっても、Reason が検知できない機種もあります。これらでも自動検出されたキーボードと同様に Reason をコントロールすることができます。
- もし他の MIDI キーボードやコントロールサーフェスを追加する場合は環境設定ダイアログで設定を行います。詳しくは p. 26 「特定のコントローラ追加方法」をご参照ください。
セットアップウィザードは現在接続されている MIDI マスターキーボードデバイスだけを設定します。

セットアップは以上です！

ここまで問題なく進むとオーディオと MIDI の接続（オーディオの再生や Reason を MIDI で制御するために必要な基本設定）は完了です！

もしなんらかの理由によって、セットアップウィザードで必要なセッティングがうまくいかなかった場合、もしくは他のデバイスを追加したい場合は、環境設定ダイアログで設定を行う必要があります（下記参照）。

- ・ **初めてプログラムを起動する際、任意でコンテンツ管理ウィンドウから追加コンテンツをダウンロードできます。**
追加コンテンツには Rack Extensions とサウンドバンクが含まれ、コンピューターの "ミュージック">"Propellerhead Content" フォルダーに保存されます。ダウンロード後に Reason を再起動すると追加コンテンツが使用できるようになります。



環境設定について

オーディオや MIDI に関する基本的な設定は環境設定ダイアログで行います。環境設定ダイアログは「編集」メニュー（macOS の場合は「Reason」メニュー）から開きます。



環境設定ダイアログ

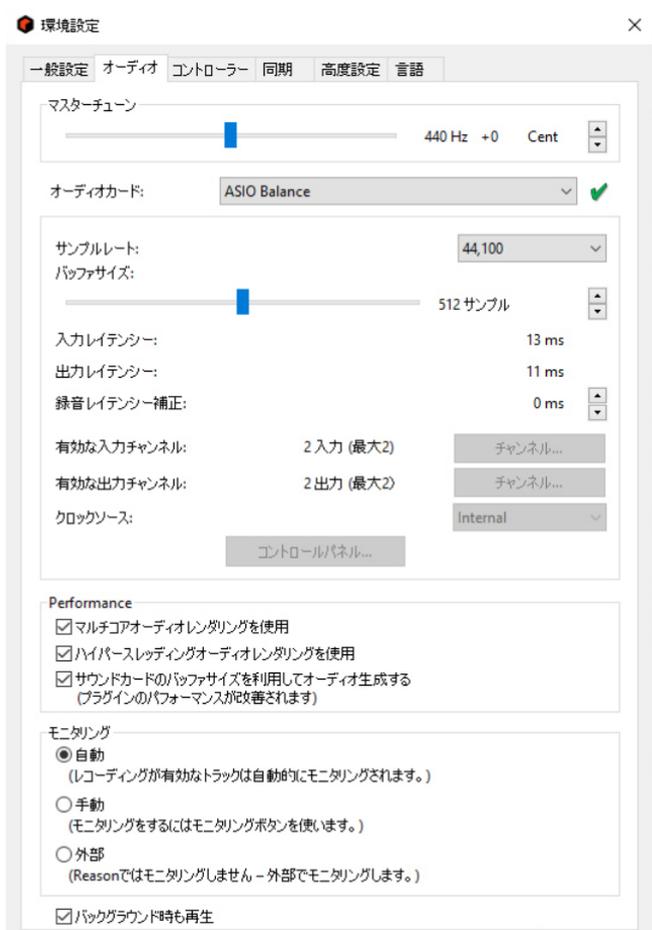
- ▶ 本書では最も重要な項目のみ解説します。他の項目についてはオペレーションマニュアルの「メニュー / ダイアログレファレンス」の章をご参照ください。



オーディオハードウェアのセットアップ

セットアップウィザードでの設定がうまくできなかった場合は、手動で Reason とオーディオハードウェアの接続に関する設定を行う必要があります。これにはオーディオドライバ（プログラムとオーディオハードウェアをつなぐためのソフトウェア）を選択します：

1. 環境設定ダイアログで "オーディオ" タブをクリックします。



2. "オーディオカード" ポップアップメニューからドライバを選択します。
使用しているプラットフォームとオーディオハードウェアによって選択するドライバは異なります。オプションがあなたのセットアップで適用不可の場合、ダイアログ上で無効表示されます。



macOS

- 使用したいハードウェアに相当するオプションを選びます（内蔵オーディオまたはインストール済みのオーディオハードウェアなど）。
- ← オーディオカードポップアップにはいくつかの内蔵入出力の組み合わせがプリセットとして準備されています。
この際、使用できる入力 + 出力の組み合わせの数は、ご使用のコンピューターのハードウェア構成によって異なります。

Windows

! Windows 環境で Reason を使用するには ASIO 対応のオーディオハードウェアが必要です。ASIO 対応でないと録音できません。

- 希望する ASIO ハードウェアに相当するオプションを選択します。
ご使用のオーディオハードウェア専用の ASIO ドライバーがある場合は、それを選択します。
専用 ASIO ドライバーを使用することによって、Reason とオーディオカードはダイレクトにコミュニケーションできます。これにより低オーディオレイテンシーやマルチ入出力が実現します。

レイテンシーとその他オーディオ設定について

"オーディオ" タブにはサウンドカードに関する追加設定項目があります。もっとも重要な箇所は "バッファサイズ" と入力 / 出力レイテンシーの表示です。



入力レイテンシーとはマイクロフォンやインストゥルメントからオーディオが「発信」された時点から、Reason で受信されるまでの遅れを指します。出力レイテンシーとは再生時に Reason が信号を「送信」してから、その音が耳に届くまでの遅れを指します。オーディオシステムのレイテンシーはご使用のオーディオハードウェア、それを制御するドライバー、そして設定によって変化します。

ドライバーを選択すると自動的にオーディオカードからレイテンシーの値が報告され、環境設定の "オーディオ" タブに表示されます。オーディオハードウェアとドライバーによってはこの値を調整できます。レイテンシーが大きい場合は設定を調整する必要があります。

- 可能であれば、バッファサイズスライダーを使用してレイテンシー値を下げます。
使用できる最低バッファサイズ値は、オーディオドライバーとコンピューターのスペックによって異なります。再生中にクリックやグリッチノイズが発生する場合、バッファサイズが低すぎます。問題なく再生できるまでバッファサイズを上げてください。
- バッファサイズスライダーが無効になっている場合は、オーディオハードウェアのコントロールパネルでバッファサイズを下げることもできます - [コントロールパネル] ボタンをクリックして開けます。



MIDI コントロールサーフェスのセットアップ

Reason では、MIDI キーボードとコントローラ類は「コントローラ」と呼ばれます。コントローラからの MIDI 入力が入力のシステムに制御される: 「Easy MIDI Inputs」と Remote。主な機能はここから記述されます。

- 同時に多数のコントロールサーフェスを使用できます。
- 多数のコントロールサーフェスに対応しています - コントローラーに搭載されたツマミ、フェーダー、ボタンは自動的に Reason デバイスの一番頻繁に使用されるパラメーターにアサインされます。コントロールサーフェスの設定をデバイスごとに変える必要はありません - MIDI 入力を ID 8 ドラックから Combinator ドラックに変えたとしてもコントロールサーフェスが自動的に対応します。コントロールサーフェスを Reason で一度だけ設定すれば、後は Reason が処理します。
- 現在ネイティブ対応していないコントロールサーフェスには、汎用ドライバーを使用できます。もちろん他のコントロールサーフェスの Remote ドライバーは今後もアップデートされます - 詳しくは Web ページにて。
- デフォルトでは全てのコントローラーはシーケンサーの MIDI 入力に追従します。つまり MIDI 入力をシーケンサートラックにアサインすると、コントロールサーフェスも同じトラックのデバイスにルーティングされます。
- コントロールサーフェスを任意のデバイスにロック (専用) に設定することができます。例えば MIDI 入力に追従するマスターキーボードとミキサー操作用にロックされたコントロールサーフェス、というように使い分けることができます。こうすることによって常にレベルやパンを制御することができます。これに関してはオペレーションマニュアルに説明があります。
- リモートオーバーライド機能によりコントロールサーフェスの特定のコントローラーを、任意の Reason パラメーターや機能にアサインすることができます。例えば特定のツマミ、またはフェーダーをミキサーのマスターレベルフェーダーにアサインしたり、コントロールサーフェスのボタン類を Reason のトランスポート (再生、停止、録音、他) にアサインすることにより、MIDI 入力のトラックアサインとは関係なく常にこれらの操作を制御することができます。これに関してはオペレーションマニュアルに説明があります。
- Remote はさらに一部の MIDI フィードバック機能付コントロールサーフェスに対応しています。Reason に対応しているこれらのコントロールサーフェスをお持ちであれば、モーターフェーダー、メーター、ディスプレイなどフル活用できます。

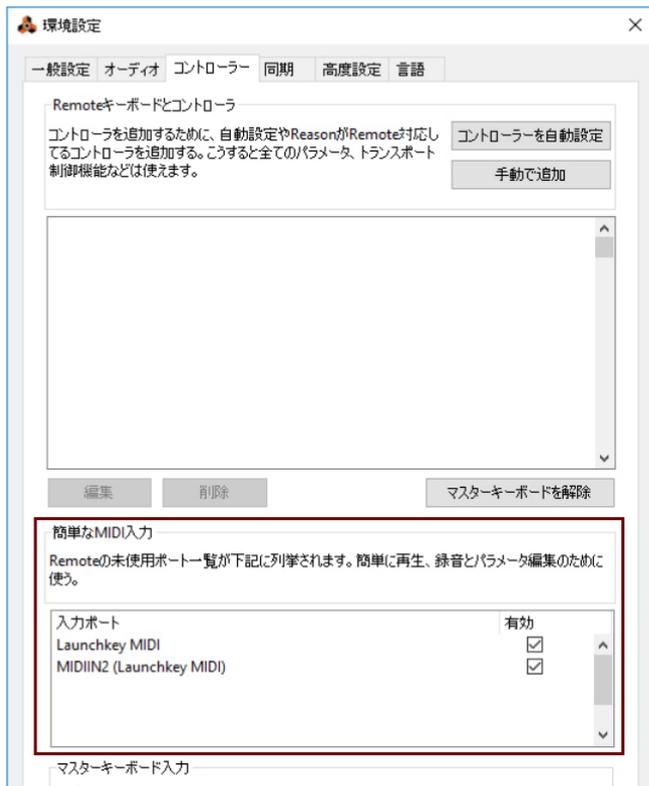
セットアップウィザードにおいてマスターキーボードを特定し、それ以外にコントロールサーフェスを使用しないのであれば、これ以上の操作を行う必要はありません。コントロールサーフェスを新しく追加したい、もしくは設定を編集したい時などは環境設定で行います。

Easy MIDI Inputs 機能の自動設定

初回起動時に、Reason は自動的に全ての MIDI 入力ポートを検出して列挙します。MIDI キーボードやコントローラーが接続されている場合に、Reason は自動的にそのポートに接続して初期化を行います。この場合はコントローラーの手動設定が要りません。



設定のキーボード&コントローラ・タブの下に全て使用可能な MIDI 入力ポートが記述されます。



パソコン上の使える MIDI 入力ポート全ては Easy MIDI Inputs リストに記述されます。

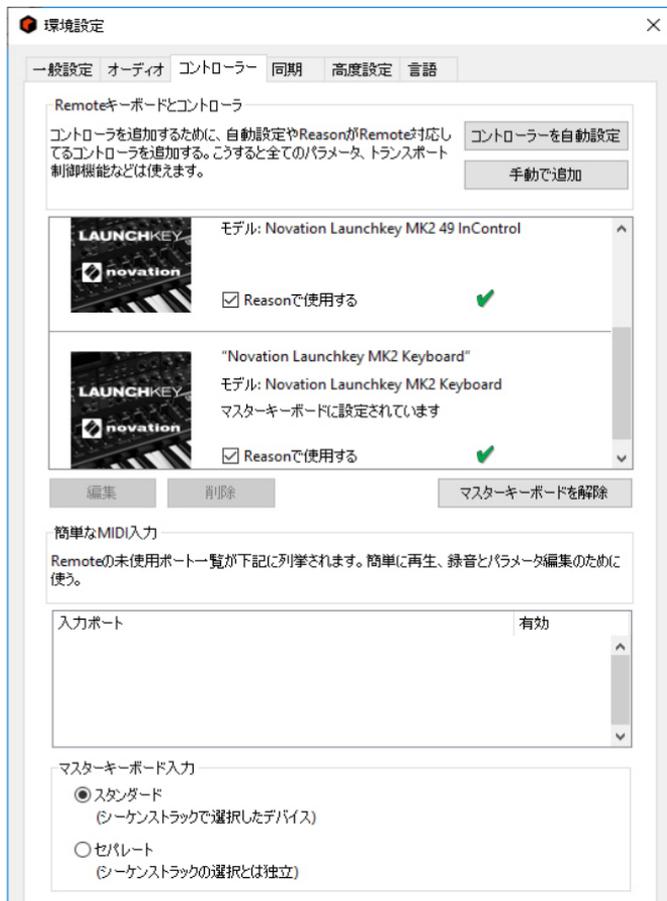
- **Easy MIDI Inputs 機能は MIDI のノートのオン / オフ (ペロシティ込み) メッセージ、モッドホイール、ピッチベンド、サステインなどを対応します。**
Remote のオーバーライドを使用すると Reason パラメーターがコントローラをつまみ、スライダー、ボタンなどに割り当てられます。詳しく使用説明書の Remote 章まで参考にしてください。
- **Reason に使用したくない MIDI ポートに関しては、有効されたボタンを無効にしてください。**
例えば、USB のドラムマシンをパソコンへ繋げたら、ドラムマシンから Reason へノートデータを転送することが好ましくない場合があります (特に Reason の MIDI クロックと同期した場合に)。

特定のコントローラ追加方法

MIDI キーボードやコントローラが Reason の対象リストに載っている場合は「キーボード&コントローラ」セクションに追加してください。こうするとつまみ、スライダー、ボタンなどは更に便利です。



1. 環境設定ダイアログを開き "コントローラー" タブを選択します。
2. コントロールサーフェスが USB 経由 (または双方向 MIDI 接続) で接続されている場合、[コントローラーを自動設定] ボタンを押します。
Reason は全ての MIDI ポートに認識信号を発信して、返信を確認します。注意：一部のコントローラーは自動設定に対応していません。
3. Easy MIDI Inputs 機能に接続したコントローラーの MIDI ポートが既に使用している場合は (参照：“Automatic set-up using the Easy MIDI Inputs function”)、検出されたポートは Easy MIDI Inputs リストから削除されます。

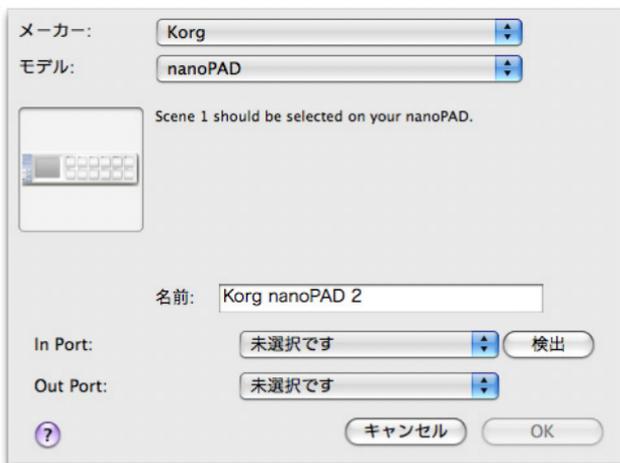


全ての認識されたコントローラーは「キーボード & コントローラー」リストに列挙されます。

3. コントローラーを手動追加するために、「追加」ボタンをクリックしてください。新しいダイアログが開きます。



- "メーカー" ポップアップメニューから追加するコントローラーのメーカーを選択します。
メニューにメーカー名がない場合は以下をご参照ください。
- "モデル" ポップアップメニューから追加するコントローラーの機種を選択します。
メニューに機種名がない場合は下記をご参照ください。
- 選択されたコントロールサーフェスの画像が表示され、機種によっては関連事項も表示されます - 関連事項をよくお読みください。
機種によっては Reason で使用するために特定のプリセットを選択する必要があります - それに関連する情報はここに表示されます。



- "MIDI 入力" ポップアップメニューからコントロールサーフェスが接続された入力ポートを選択します。
入力ポートが定かではない場合、[検出] ボタンをクリックし、コントロールサーフェスのコントロールに触れるか、キーボードを演奏すると自動的に正しい入力ポートが選択されます。
 - コントロールサーフェスの機種によっては複数の "MIDI 入力" ポップアップメニューがあるものもあります。
 - この場合、全ての MIDI 入力ポップアップメニューに入力ポートをアサインする必要があります。
 - コントロールサーフェスの機種によっては "MIDI 出力" ポップアップメニューがあるものもあります。
 これに "オプション" と表示されている場合に限りポートを選択する必要はありません。しかし、その他の場合は MIDI 出力をアサインする必要があります。モーターフェーダー、ディスプレイなどの MIDI フィードバック機能が装備されているコントロールサーフェスを使用する場合に該当します。
 - "名前" 欄にてコントロールサーフェスに好きな名称を付けることができます。
 - [OK] をクリックし、コントロールサーフェスを追加します。
これに "オプション" と表示されている場合に限りポートを選択する必要はありません。しかし、その他の場合は MIDI 出力をアサインする必要があります。モーターフェーダー、ディスプレイなどの MIDI フィードバック機能が装備されているコントロールサーフェスを使用する場合に該当します。
- "コントローラー" タブに戻り、追加したコントロールサーフェスがリストに表示されます。



お持ちのコントロールサーフェスがメニューにない場合

お持ちのコントロールサーフェスが "メーカー" または "モデル" ポップアップメニューに無い場合は、Reason の Remote にネイティブ対応していないことを意味します。これに当てはまるコントロールサーフェスは、汎用コントローラーとしてプログラムに対応しています。設定手順は以下の通りです：

→ "メーカー" ポップアップメニューから "Other" を選択し、"モデル" で3つの選択枠から適当なものを選びます。

また、メーカー名はあるが機種のみリストにない場合は：

→ "モデル" で3つの "Other" の選択枠から適当なものを選びます。

どちらの場合も、以下から選択します：

- **MIDI Control Keyboard**
プログラム可能なツマミ、ボタン、フェーダーなど装備されている MIDI キーボードをお持ちの場合、これを選択します。コントロールする Reason デバイスに対して正しい MIDI CC メッセージを送信するように MIDI コントロールキーボードを設定する必要があります - Reason の「MIDI Implementation Chart」ドキュメントをご参照ください。コントロールサーフェスに Reason デバイス用のテンプレートやプリセットが用意されている場合は、これらを使用することもできます。
- **MIDI Control Surface**
プログラム可能なツマミ、ボタン、フェーダーなど装備されているが鍵盤はない MIDI コントローラーをご使用の場合はこれを選択します。このオプションでもコントロールサーフェスが正しい MIDI CC メッセージを送信するように設定が必要です。
- **MIDI Keyboard (No Controls)**
プログラム可能なツマミ、ボタン、フェーダーなどは付いていない MIDI キーボードをお持ちの場合、これを選択します。演奏のみに使用されます (ピッチベンド、モジュレーションホイールなどのパフォーマンスコントローラーも含む) - このタイプのコントロールサーフェスでは Reason デバイスのパラメーターをコントロールすることはできません。
- **MIDI Multichannel Control Keyboard/Surface**
これらのオプションは、複数の MIDI チャンネルを同時に処理できる MIDI キーボードやコントロールサーフェスをご使用の場合に選択できます。

機種を選択したら前述のように MIDI 入力を選択します。

マスターキーボードについて

コントロールサーフェスの内、ひとつはマスターキーボードとして指定できます。マスターキーボードには鍵盤が付いている必要があり、特定の Reason デバイスにロックできません (つまり必ずシーケンサートラックの MIDI 入力に追従します)。このコントロールサーフェスを使って Reason のインストゥルメントデバイスを演奏します。

- **最初に追加された鍵盤付きのコントロールサーフェス (または自動検出されたもの) が自動的にマスターキーボードに指定されます。**
この設定内容は環境設定の "登録済の機器" リストに表示されます。
- **別のコントロールサーフェスをマスターキーボードに指定するには、それをまずリストから選択し、[マスターキーボードに設定] ボタンをクリックします。**
マスターキーボードは一台のみ指定できます。
- **マスターキーボードを全く指定しない場合は、マスターキーボードに指定されているコントロールサーフェスをリストから選択し、同じボタンをクリックします (この場合、ボタンは [マスターキーボードを解除] に変わります)。**



マスターキーボード入力

Reasonで使用する ✓

"Novation Launchkey MK2 Keyboard"
モデル: Novation Launchkey MK2 Keyboard
マスターキーボードに設定されています

Reasonで使用する ✓

編集 削除 マスターキーボードを解除

簡単なMIDI入力
Remoteの未使用ポート一覧が下記に列挙されます。簡単に再生、録音とパラメータ編集のために使う。

入力ポート 有効

マスターキーボード入力

- スタンダード
(シーケンストラックで選択したデバイス)
- セパレート
(シーケンストラックの選択とは独立)

これでマスターキーボード入力のモードを設定します。

- **スタンダード**
マスターキーボード入力は、トラックで選択したデバイスに自動的にアサインされます。
- **セパレート**
マスターキーボード入力をトラックの選択から独立させます。マスターキーボード入力はトラックリストのデバイスアイコンをクリックして選択します。他のトラックを選択（トラックネームをクリック、またはトラックリストをクリック）しても、マスターキーボード入力は移動しません。

その他の機能

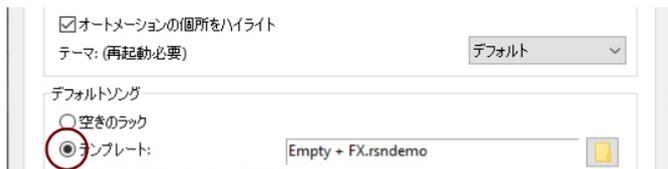
- コントロールサーフェスの設定内容を編集するには、リストからそのコントロールサーフェスをダブルクリックします（または選択し、**[編集]** をクリックします）。
必要に応じて名称と MIDI ポート設定を変えることができます。
- コントロールサーフェスを削除するにはリストから選択し、**"削除"** をクリックします。
- **"Reason で使用する"** チェックボックスを無効にすることで、コントロールサーフェスを「切る」ことができます。
この機能はコンピューターに接続されたコントロールサーフェスを他のアプリケーションでのみ使用したい場合に便利です。
- **環境設定の中には "同期" ページもあります。**
このページは外部からのコントロールと MIDI クロック同期の設定になり、操作のための MIDI コントロールは全て "コントローラー" タブにて設定します。



デフォルトソングの設定

"ファイル"メニューから"新規"を選択した際に、「テンプレート」として自動的に開くデフォルトソングを指定することができます。デフォルトソングは以前に作成したソングや、付属のテンプレートソングから選択できます。デフォルトソングの指定は環境設定ダイアログの"一般設定"タブで行います。

1. "編集"メニュー (Win) または "Reason" メニュー (Mac) から "環境設定" を選択し、"一般設定" タブをクリックします。



2. "デフォルトソング" セクションで "テンプレート" ラジオボタンをクリックします。
3. 右側のフォルダーアイコンをクリックし、新規ソングのテンプレートとして使用する Reason ソングを選択します。

新しいソングを作成するたび ("ファイル"メニューから"新規"を選択)、選択したソングが読み込まれ、新しいソングのテンプレートとなります。新規ソングの名前は Windows 環境では "Document n" ("n" は番号)、macOS では "untitled n" ("n" は番号) になります。ソングを保存する際に名前を変えられます。

起動時に最後に開いたソングを開く

Reason を起動するたびに、前回最後に開いていたソングを自動的に開くよう設定できます。設定は環境設定ダイアログの "一般設定" タブで行います。

1. "編集"メニュー (Win) または "Reason" メニュー (Mac) から "環境設定" を選択し、"一般設定" タブをクリックします。



2. "起動時に最後に開いたソングを開く" オプションにチェックを入れます。次回 Reason を起動したとき、最後に保存されたソングが自動的に開きます。



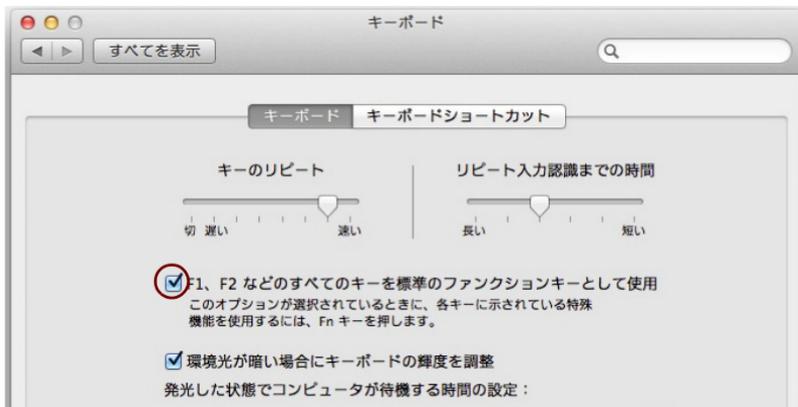
macOS ファンクションキーの再アサイン

Reason で作業を行う際、3つのメインエリア（メインミキサー、ラック、シーケンサー）の間を頻繁に行き来します。これらを切り替える最も素早い方法はファンクションキー F5、F6、F7 を使用する方法です（オペレーションマニュアルの「共通の操作と概念」の章の「エリア間のナビゲーション」参照）。また F2、F3、F4 と F8 キーはそれぞれスペクトラム EQ、ブラウザ、オンスクリーンピアノキーとツールウィンドウ表示 / 非表示に使います。

ただし多くの Macintosh 機種（特に MacBook）では、これらファンクションキーはハードウェアコントロールボタンとしても機能します。例えば内蔵スピーカーのボリューム、画面の明るさ、キーボードのバックライトなどを制御します。Reason などのアプリケーションでこれらのファンクションキーを使用するには "Fn" キーを押しながら操作する必要があります。

これでも操作は問題なく行えますが、Reason での作業をより円滑にするためにも設定を変更することをお奨めします（F5 は「F5」コマンドに、ハードウェア操作は Fn を押さえるように入れ替える）。以下のように行います：

1. macOS のシステム環境設定を開き、"キーボード" を選択します。
"キーボード" 設定が表示されます。
2. "キーボード" タブを選択し、"F1、F2 などのすべてのキーを標準のファンクションキーとして使用" オプションにチェックを入れます。
これで F2-F8 を使って Reason の機能を制御できます。ボリュームや画面の明るさ調整などのハードウェアコントロール機能を使用するには、"Fn" キーを押しながらファンクションキーを押します。

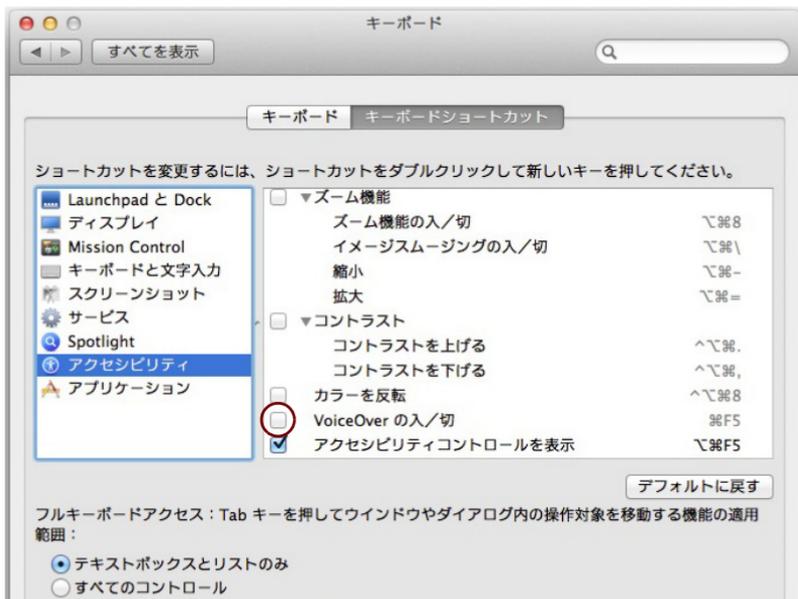


ファンクションキーの中には macOS キーボードショートカットにアサインされているものもあり、これらは Reason などのソフトウェアより優先されます。これも簡単に変更できます：

3. "キーボード" ウィンドウの "キーボードショートカット" タブをクリックします。
キーボードショートカット環境設定ウィンドウにはシステム機能にアサインされたキーボードショートカットのリストが表示されます。例えば [Cmd]-[F5] は VoiceOver 機能の使用 / 停止にアサインされていますが、これはメインミキサーを個別のウィンドウに切り離すためのショートカットでもありません。



4. "VoiceOver 機能の使用 / 停止" アイテムにスクロールし、チェックを外すか、他のキーボードショートカットをアサインします。



5. これで設定は完了です。"キーボードとマウス" ウィンドウを閉じます。
以後、ファンクションキーとキーボードショートカットは Reason で正しく機能します。



